

J-PARC事故からの回復の歩み

2014年10月29日
J-PARCセンター

J-PARCハドロン実験施設における
放射性物質漏えい事故検証に係る有識者会議

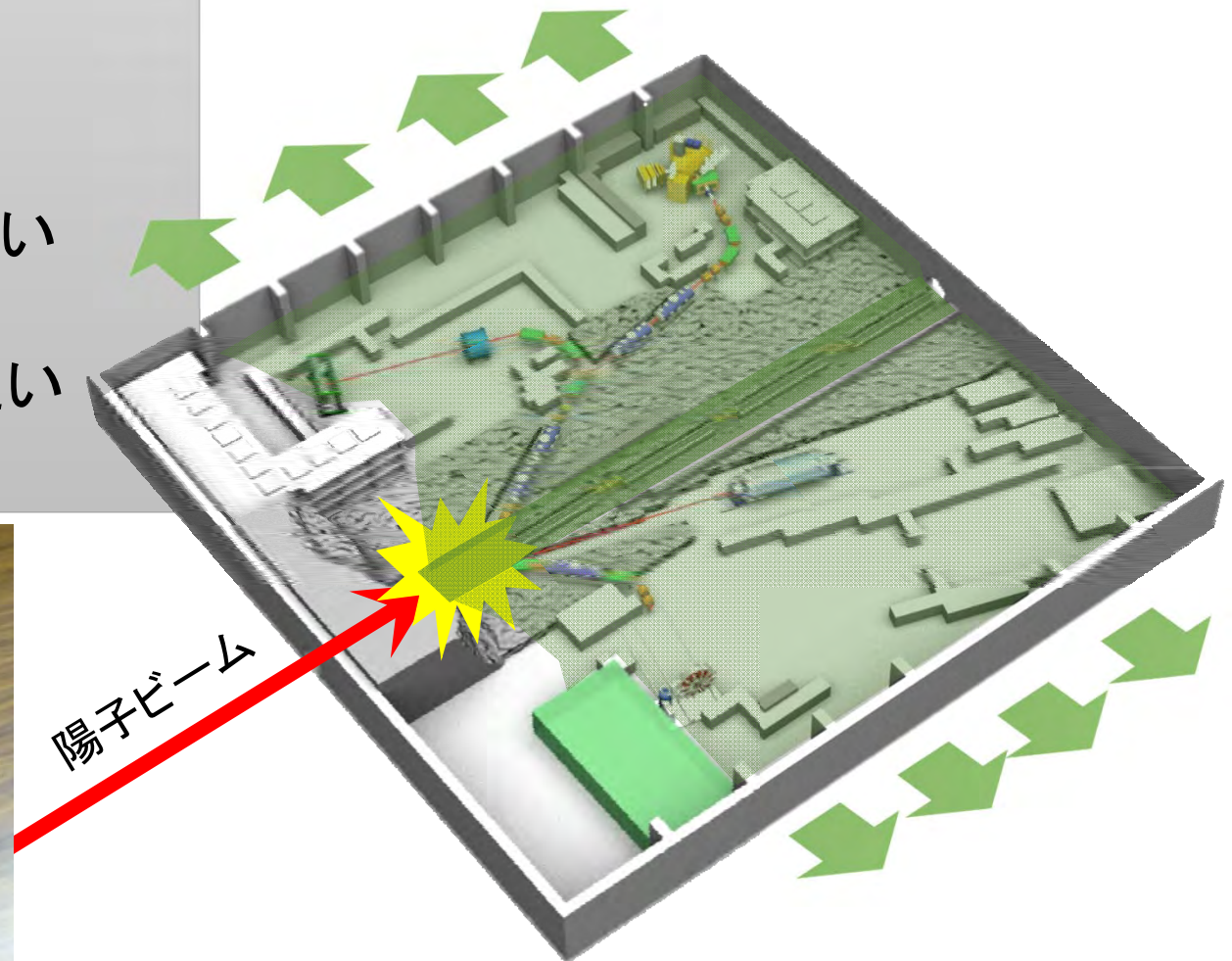
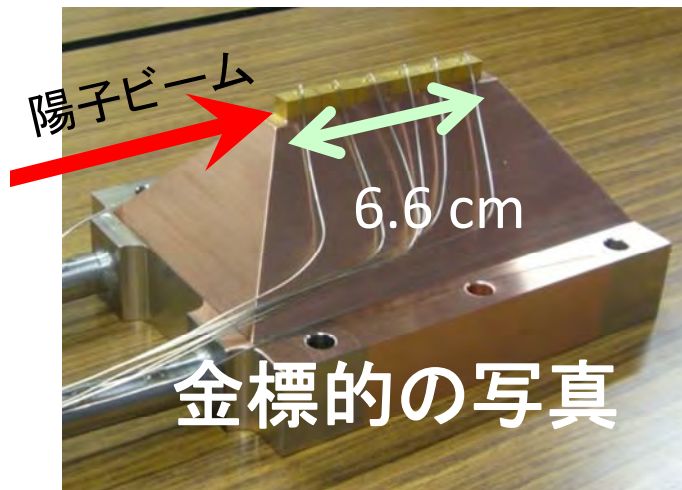
内 容

- 何が問題だったのか
 - J-PARC センターの取り組み
 - 学んだこと
 - おわりに
-
- 有識者会議へのチャージ

ハドロン事故のあらまし

5月23日 11時55分

- 異常なビーム
- 標的が異常な高温に
- 放射性物質の発生
- 実験ホールへの漏えい
→ 作業者の被ばく
- 実験施設外への漏えい
→ 管理区域外へ



事故の問題点

- ① 放射性物質を施設外及び周辺環境に漏えいさせたこと
- ② 国・自治体等の関係機関への通報連絡及び公表が遅れたこと
- ③ ハドロン実験ホール内で作業者が放射性物質を吸入し内部被ばくしたこと

事故によって失ったもの

①信頼

- * 地域住民、期待、J-PARC, JAEA, KEK
研究者、研究者集団、研究機関、
加速器・原子力・放射線分野

②時間

- * ユーザの機会
- * 若手研究者、学生のチャレンジの機会

③自信

事故からの1年 (対外的な事項)

2013.5.23 **ハドロン実験施設事故発生**

5.28 文部科学大臣より KEK及びJAEAへ安全体制緊急総点検等要請、
有識者会議の設置

5.30～ 茨城県知事、東海村長等、地元自治体から注意等要請

再発防止策の提出

8.12 原子力規制委員会へ法令報告第三報を提出、茨城県・東海村へも提出

9.26 文科大臣へ措置報告書提出

安全性の調査・確認

11.7 原子力規制庁による現地調査

12.5 地元自治体による立入調査

12.13 茨城県原子力安全対策委員会で安全管理体制強化を報告。

12.20 茨城県知事への措置報告書提出

12.24 東海村長がハドロン施設以外の施設の利用再開了承を表明。

12.25 茨城県よりハドロン施設以外の施設の利用再開了承。

2014.1.21 那珂市議会原子力安全対策特別委員会に現状報告

3.7 JAEA東海研究開発センターによる住民懇談会にて現状報告

ハドロン以外の
施設の安全性を
確認

事故からの1年(J-PARCセンター活動)

- 2013.5.24 J-PARC事故対策本部立ち上げ
再生タスクフォース(TF)を編成: 事故原因追及、
再発防止検討(2作業チーム)
- 6.13-15 住民説明会(3回)を実施。
- 6.18 **有識者会議の立ち上げ**: 6.21~8.22まで 6回開催。
- 8.27 有識者会議答申書を受け取る。
再生TFの作業、有識者会議の答申を反映して、法令報告及び
大臣報告を作成。
- 10.1 **安全管理組織改正を実施。**
- 10.31-11/2 住民説明会(3回)を実施。
- 11.1 **安全関係規程、規則改正を実施。**
- 11.7~ **安全教育を実施。**
- 11.上旬 電源誤作動原因確定。
安全教育後、MLF及びニュートリノ実験施設の準備作業に着手。
- 12.11 加速器施設安全シンポジウム
- 12.12-13 金標的目視確認、標的観測後、ハドロン改修作業に本格的に着手。
- 2014.1.17 リニアック性能試験にて400 MeV 達成
- 2.17 **物質・生命科学実験施設利用運転再開**
- 5.26 **ニュートリノ実験施設運転再開**

センター構成員が
一丸となったチーム

安全に関する組
織及び意識改革

安全が確認されたMLF、
ニュートリノの再開

対応において何が問題だったか

* 様々な情報がありながら判断と対応が遅れた。何故か？

1. 責任者たるべき放射線取扱主任者、施設管理責任者等が不在
→ 責任体制・指揮系統が不明確
2. 金標的の破損は想定されていなかった
→ 起こりえる事態のリスクと対策の検討が不足
3. 避難指示等、判断、行動の基準が不明確であった。
→ 具体的な基準の検討が不十分

全体的には、**安全文化(安全の重要性と安全確保への配慮)**の不足

学んだこと

- 安全は施設運営の前提である。「安全か研究か」という問題ではない。
“安全なくして研究なし”
- 安全第一とは
 - 何もチャレンジをしないこと、ではなく
 - チャレンジしながら、人身・機器へのリスクを想定し、備え、コントロールすること
- そのためには事象を管理内、想定内に収めることが重要
 - 起こりえる事象への想像を持ち、
 - 対応策をきちんと考え、実行すること

現状と今後の進め方(想定される事項)

下記事項については、J-PARCセンターの想定であり、具体的なスケジュールについては、今後の関係各所との調整等により段階的に決まるものである。

➤再発防止策を踏まえた使用の許可(9月9日)

➤再発防止策の確認

- ・ J-PARC ハドロン実験施設における放射性物質漏えい事故検証に係る有識者会議(10月29日)
- ・ 放射線事故想定訓練(原科研との合同訓練)(11月25日)

➤再発防止策の完了

- ・ 茨城県、東海村、隣接市、隣々接市町への報告・確認
- ・ 住民への説明

➤施設検査受検

放射線障害防止法に基づく施設検査

ハドロン施設の利用運転再開は、上記事項の対応を経た上で行う。

おわりに

失ったもの

得たもの

① 信頼

• 強いチームワーク

② 時間



• より安全な実験環境

③ 自信

• 振り返りを大切と思う心

まだ道半ば、完全な信頼回復は安全の実践で

有識者会議へのチャージ

- 事故の反省に基づき実施してきた改修作業
- J-PARC安全管理体制の再構築
- 再生への今後の取り組み

以上3点について、
妥当性の検証と評価を御願い致します。